

市区町村名	熊本県熊本市	担当部署	政策局総合政策部政策企画課
		電話番号	096-328-2035
		所属メール	seisakukikaku@city.kumamoto.lg.jp

1 取組事例名

・感じる計画！-PLAN TO FEEL！ 熊本市第8次総合計画展



2 取組期間

・会 期：令和6年（2024年）4月3日（水）－5月27日（月）（49日間）

3 取組概要

令和6年4月からスタートした「熊本市第8次総合計画」の周知に向けた取組として、美術作品やイメージ映像、ワークショップなどアートを通じて、第8次総合計画を市民に身近に感じてもらうイベント「熊本市第8次総合計画展」を開催しました。

この展覧会では、熊本市現代美術館館長及び熊本市文化顧問である日比野克彦氏の監修により、第8次総合計画の各ビジョンと紐づけた動画や作品等を展示しました。

○ 基本情報

会 場：熊本市現代美術館（井手宣通記念ギャラリー・アトラボマーケット）

主 催：熊本市 入場料：無料

企画監修：日比野克彦 熊本市現代美術館館長・熊本市文化顧問

4 背景・目的

「総合計画」とは、熊本市のめざすまちの姿を明らかにし、市民をとりまく様々な課題を踏まえつつ、これを実現するための施策をまとめたまちづくりの基本指針であり、熊本市の様々な計画の最上位計画です。

また、総合計画は行政だけの計画ではなく、市民の皆様と共有し、行政と市民が連携してまちづくりを進めていく必要があります。

一方で、文章だけの総合計画を手にとっていただくことや、手に取ったすべての市民の皆様に読んで理解いただくことは、ハードルが高く、行政の行う計画による未来と自分の未来を重ね合わせて見ていただくことが難しい現状に課題を感じていました。

そこで、本市の文化顧問（※）を務める日比野氏に相談したところ、「アートは人の心に訴えかけることが得意」であり、総合計画をアートの力で市民に伝えることで、文章で読むより身近に感じてもらえるのではないか、との着想から、「総合計画の展覧会」の開催に挑戦することとなりました。

※熊本市は、文化行政を市政の中枢に置き、アートを介して行政の課題を解決することを目的に、令和5年（2023年）4月より、日比野克彦熊本市現代美術館館長に熊本市の文化顧問を委嘱しました。

5 取組の具体的内容

○展示

第8次総合計画に掲げる8つのビジョンと響き合う様々な美術作品を展示しました。



○映像

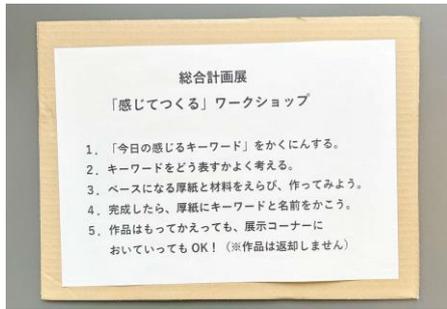
第8次総合計画の内容について5分程度で説明する映像や、まちを良くするために、自主的に愉しんでまちづくりの活動をされている市民の皆さんへのインタビュー映像、総合計画展の開催までのメイキング映像などの映像を作成し、展示会場や市内の各施設で放映しました。



○ワークショップ

第8次総合計画に掲げる8つのビジョンから抽出したキーワードを、様々な材料を自由に使い、感じたままにつくることができるワークショップを開催しました。

期間中毎日、いつでもどなたでも、無料で参加可能なワークショップで、会場には8つのビジョンの中から「本日のテーマ」が掲げられており、そこに置かれた様々な材料を自由に使って、「くらし」「あんぜん」「まもる」などを想像しながらつくっていただく、というものです。



○ショップ「総合計画」店」

第8次総合計画展を盛り上げるため、ワークショップ会場のそばに「総合計画「店」と冠したショップを展開しました。地元の民間企業の皆様にご協力いただき、総合計画のロゴマーク等をあしらったお菓子やグッズを販売しました。



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

第8次総合計画を市民の皆様と共有し、行政と市民が連携してまちづくりを進めていただくためには、市民の皆様が第8次総合計画そのものを理解していただくだけでなく、第8次総合計画がめざす未来について、想像を膨らませ、まちづくりに興味関心を持ち、自身もまちづくりに参画したいと感じていただくことが重要です。

今回の第8次総合計画展は、完成した第8次総合計画をもとに、熊本市をこれからどのようなまちにしていきたいか、市民の皆様一人ひとりにまちの未来について感じ、考えていただくためのきっかけとすることが目的でした。

行政の総合計画を「展覧会」という形で見せること自体が全国初の試みではありましたが、単に計画そのものを並べただけではなく、アートを通じて「見る、体験する」ことで、ご覧いただいた方自身が自ら考え、「感じる」ことができるような展示会は、ほかに類を見ない取組であると考えます。

7 取組の効果・費用

○展覧会入場者数：7,094名

○ワークショップ参加者：781名＊作品数から換算（作品を持ち帰った方を除く）

○効果

美術作品や動画、ワークショップといったアートを通じて総合計画に触れていただくことで、若者を含む多様な方々に、市の施策をより身近に感じる機会を提供できたのではないかと考えます。

○その他の参加者

熊本市立必由館高校における「探究の学習」や市内美容学校の授業の一環としてご活用いただくなど、若い世代の方々にも多くご来場いただきました。

また、熊本市役所新規採用職員研修をはじめ、他都市から視察にお越しいただくなど、行政職員の学びの場としても活用いただきました。

○熊本市立必由館高校1,2年生 総合的な探究の時間(授業)において、総合計画を軸とした市役所連携「感じる探究 in 必由館」を開催。年間を通じ、地域課題解決に向けた探究学習を実施。

○熊本市役所新採研修 令和6年4月15日(月)約240名

○モアヘアメイクカレッジ研修 令和6年4月24日(水)・25日(木)約60名

○岡山市役所視察対応 令和6年5月24日(金) 職員数名

○神戸市総合計画審議会にて紹介 令和6年6月6日(火)



○来場者の声

- ・ — この試み、良いね。冊子（総合計画概要版）をください。読んでみます。(80代男性)
- ・ — 総合計画のキービジュアルを見たときに、「これが総合計画の表紙？」と衝撃を受けました。(県職員)
- ・ — 熊本市と美術館の関係がすごい！（水戸美術館学芸員）
- ・ — 総合計画の委員をしているけれど、市民に浸透するのに苦労する。展覧会、やられた！と思いました。(広島修道大学)
- ・ — ワークショップ、来週の月曜で終わっちゃうんですね。今度はいつありますか？楽しくて、毎週来ていました。(子どもを3人連れたお母さん)
- ・ — 「6. 暮らし」を表している美術作品は、ハンガーに服や着物がかけられていたり、傘が置いてあったりする屏風であった。服は生活必需品であり、当たり前のもという認識が強いが、当たり前のもではないことをこの屏風を見ておもいだした。すべての市民の生活の質の維持・向上のため、まずは当たり前前に感謝をすることが大事だと思った。すべての市民が安全な暮らしを楽しめるようになってほしい。(高校生)
- ・ — (「1. きぼう」を表現した作品を見て) 沢山の子供たちが自分の思うままに表現していてアートは自由でいいんだと思った。これがきぼうに繋がっているのではないかと思う。これからこの景色がどう変わっていくか若者のきぼうが感じられた。(高校生)

○費用

- ・約 8,500 千円（企画、制作、運営、撤収にかかる費用）

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦勞した点）

○作品の選定

・展示した美術作品は、熊本市現代美術館の収蔵作品であり、今回の展示会のために作成されたものではありません。したがって、展示の仕方によっては、作者の意図と異なる場合も想定されたため、キーワードと作品の関連付けや見せ方には苦勞しました。

9 今後の予定・構想

- ・今回の第8次総合計画展による総合計画への関心の高まりを生かし、総合計画に掲げるビジョンの実現に向け、市民の皆様と連携し取組を進めます。
- ・総合計画展に対するアンケートや感想等と展示物を関連させた再展示や、市立高等学校における探究学習発表会等、「総合計画展のその後」の取組を通じて、更なる総合計画の周知に取り組みます。

10 他団体へのアドバイス

・総合計画に掲げるまちづくりを市民の皆様とともに進めていくためには、まずは、総合計画に興味をもってもらい、身近に感じていただくことが大事ではないかと考えます。市民の皆様が様々な行政課題を自ら考え、解決に向けて行動したいと思えるような仕掛けとして、文化芸術の力を借りたこれまでと違うアプローチが参考になれば幸いです。

11 取組について記載したホームページ

○第8次総合計画展について（熊本市 HP）

[熊本市第8次総合計画展を開催しました / 熊本市ホームページ \(city.kumamoto.jp\)](http://city.kumamoto.jp)

○映像作品について（熊本市公式 YouTube）

第8次総合計画説明動画：<https://www.youtube.com/watch?v=sGYZ6XauwEg>

まちづくりのカタチ：https://www.youtube.com/watch?v=87bP_oHEdBA